

令和7年度 中野中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

平均正答率は国語−0.3ポイント、数学は−3.0ポイントと全国平均を下回っている。平均無回答率は国語−0.7ポイント全国平均を下回っているが、数学は+0.7ポイントと全国平均を上回っており、国語の方が回答しようとする意欲が高いと考えられる。

【国語】知識及び技能に関する問題の正答率は全国平均を上回っており、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は−0.3ポイントとなっている。思考力、判断力、表現力等に関する問題の正答率は「話すこと・聞くこと」は全国平均を−1.8ポイント下回ったが「書くこと」は+0.2ポイント上回った。「読むこと」においては−0.1ポイントとなっている。

【数学】正答率は「数と式」「図形」ではそれぞれ−6.2ポイント、−1.5ポイントと下回っている。「関数」「データの活用」の領域でもそれぞれ全国平均を−2.3ポイント、−13.4ポイントと下回っている。

【理科】全国と比較してIRTバンド5の割合が−1.9ポイント下回っている。

【生徒質問紙】では、「朝食を食べていますか。(+3.6)」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか(+6.9)」と全国平均を上回っている。「将来の夢や目標を持っていますか(+1.0)」「国語の授業の内容はよく分かりますか」は全国平均を−9.4)ポイント下回っていたが、「数学の授業の内容はよく分かりますか」は全国平均を+8.6ポイントと大きく上回っていた。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか(+5.5)」「いじめは、どんな理由があつてもいけないことがありますか(+7.4)」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較すると上回っている。「自分には、よいところがあると思いますか」は全国平均を−1.5ポイント下回っていた。

【今後に向けて】

国語科では、事実や意見、心情を効果的に伝える力を育成するため、作文・意見文・俳句・短歌など多様な書く活動に取り組んできた。また、主体的な学習を促すため、個人およびグループでの話し合い活動を単元ごとに設定し、考えを表現・共有する場を確保してきた。引き続き、デジタル教科書やパワーポイント、自作プリントなどの教材を活用しながら、生徒一人ひとりの表現力をさらに高めていきたい。

数学科では、1学期から2学期中間テストまでの知識・技能分野の正答率が、1年生73.4%→67.4%→59.6%、2年生61.9%→50.9%→55.4%、3年生71.9%→66.6%→64.2%となり、全学年平均63.5%で目標を達成した。また、NHK for school「マスと！」シリーズの活用により、生徒の学習意欲が向上し、基礎・基本の定着にも効果が見られた。

今後は、これまでの成果を基盤としつつ、生徒の理解状況に応じた指導の工夫やICT教材のさらなる活用を図り、国語科ではより深い思考と豊かな表現を、数学科では確かな知識・技能の定着と主体的に学ぶ姿勢の育成を一層推進していく。